

1. 実況上の着目点

- ① 北海道付近から山陰沖にのびるシアーラインが東進、近傍で激しい雨を解析し、発雷を多数検知。
- ② 日本の東、東シナ海と華中には高気圧があって、帯状高気圧を形成。
- ③ 500hPa 5340m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフがアムール川上流付近を南東進。500hPa 5280m付近のトラフ対応の低気圧が沿海州付近を東進。②の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、北日本を中心に、13m/s前後の風を観測。一方、低気圧が日本の東を北東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のシアーラインは、7日朝までに日本の東へ進み、その後、不明瞭となる。1項③のトラフは南東進し、これに対応する前線を伴う低気圧が7日夜までに日本海で発生し、8日夜までに日本の東へ進み、前線は本州を通過する。前線通過後は、日本付近は西高東低の気圧配置となる。1項③の日本の東の低気圧は8日朝にかけて日本のはるか東へ北東進。1項③の沿海州付近の低気圧は、8日にかけて、オホーツク海へ東進する。前線や低気圧、シアーラインに向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う強い雨の降る所がある。北～西日本では8日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。東北地方では8日にかけて、持続的な降水による土砂災害に注意・警戒。1項②の高気圧と1項③の沿海州の低気圧との間で気圧の傾きが急となることや西高東低の気圧配置の影響で、強い風が吹き、波が高くなる所やしける所がある。北～東日本では9日にかけて、西日本では8日は、高波、強風に注意。
- ② 1項②の日本の東の高気圧は8日にかけて日本のはるか東へ移動し、東シナ海の高気圧は7日夜にかけて九州付近へ移動し、その後、不明瞭となる。また、華中の高気圧は7日夜までに不明瞭となる。帯状高気圧や大陸の高気圧の張り出しの縁辺での吹送・吹続の長い東北東の風の影響で、南西諸島では、波が高くなる所がある。南西諸島では9日にかけて、うねりを伴う高波に注意。
- ③ 2項①の低気圧と前線の通過後は、西高東低の気圧配置となり、北日本では、850hPa -12℃以下、東日本では、-6℃以下の下層寒気が南下し、降雪となる所がある。北～東日本では9日は、降雪による交通障害に留意し、着雪に注意。500hPa -30℃以下の寒気を伴う温度トラフが本州を通過するため、大気の状態が不安定となる可能性がある。北日本と北陸地方では、落雷、突風、降ひょうに留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

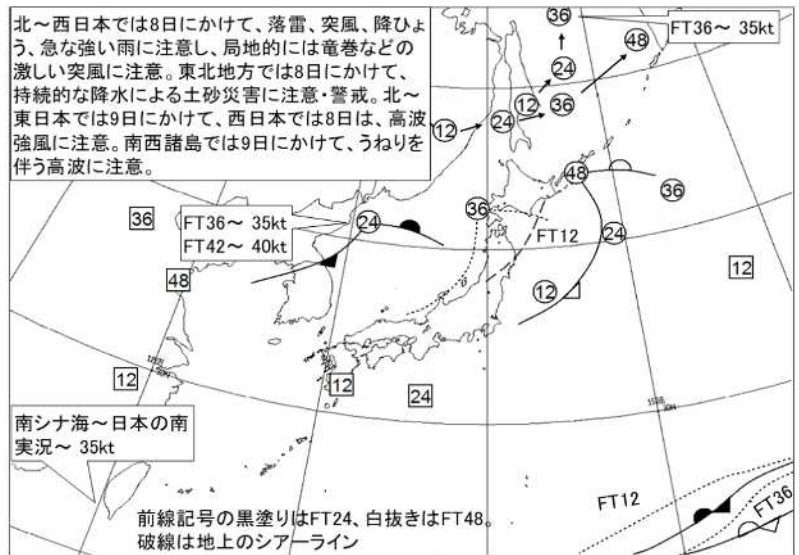
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間):多い所(注意報級以上)の所はない。
- ③ 波浪(明日まで):東北4、北海道・北陸・近畿・中国・沖縄3m。
- ④ 高潮(明日まで):大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図